国語科学習指導案

指導者　　浜　岡　恵　子

日　時　　平成27年11月21日（土）　第１校時（10:00～10:50）

年　組　　中学校第３学年１組　計40名（男子20名，女子20名）

場　所　　中学校第３学年１組教室

単　元　　「後輩へ贈る修学旅行のTaskを作ろう」

単元について

子どもたちの現在・将来にある課題はさまざまで，大人たちがこれまでの経験で予測できる範囲に止まらない。そこで，学校教育においても，生徒自身が課題解決のために，既に習得した知識や技能に加えて，必要な情報を収集し，多面的な視点から解決の方法を思考したり，実践したりするために仲間と協働する力の育成が求められる。生徒は集団生活の中で教科や総合的な学習の時間を中心に，すでに多くのグループ学習を体験している。国語科の授業において，グループでの活動を行う場合，そのほとんどが「話し合う」場であるといってもよいだろう。隣同士のペア・トークから学級全体での討議まで，学習段階に応じていろいろなグループを組む場面があるが，教師が期待するのは他者と協働することを通して，さまざまな角度からの視点を獲得することであり，自己認識が深まっていくことである。しかしながら，実際の教室で行われる「話し合い」は，それぞれが意見を出し合うだけで，結論はグループメンバーの意見から選択したり，迎合したりする段階に止まってしまい，自己認識の深化にはつながっていない実態もある。いったいこれは，どこに原因があるのだろうか。大槻は「話し合い成立の条件」として次の４つを挙げている。(『国語教育研究』498集．2013.）

（１）話し合いのメンバー全員が話し合うことのよさを体験していること。

（２）話し合いのメンバーの誰もが「話す」内容を持っていること。

（３）話し合いのメンバーの誰もが話し合う能力を持っていること。

（４）話し合いのメンバーが相互の「優劣」を忘れた状態にいること。

これらはいずれも大切なことであるにもかかわらず，国語科で育成するのは上述の（３）に重点がおかれる場合が多い。それは，教師自身が「話し合う能力」を育成することによって，その他は付随してくるものと考えているからではないだろうか。教師から「話し合いなさい」と指示されて受動的に行うのではなく，生徒自身が課題を解決するために他の人と「話し合いたい」と能動的に行う姿を理想とするのであれば，学習の中に（１）～（４）をバランス良く仕組んでいくことが重要になってくると考える。

本校第３学年の生徒は，これまでの学習で，「話し合うこと」の経験を多くもっている。生徒の意識調査により，「話し合いをしてよかったと感じた経験がある」と答えた生徒は，実に88％にものぼった。しかし，「自分の意見をもって，話し合いに臨んでいるか。」という質問には，「いつもそうしている」と答えた生徒は42％であり，グループの中心となる生徒の意見に頼っている様子がしばしば見られる実態と一致する。学校生活の中で互いの関わりが密になるにつれて，生徒間での優劣を自分自身で判断し，メンバーに依存しようとする生徒もいる。この関係は固定的ではないが，課題が難しいものであったり，自分の意見を十分に醸成する時間を持てなかったりした場合はこの傾向が強まる。

そこで，今回の学習課題は，第３学年生徒全員が修学旅行（今年度は７月に実施）という共通の体験をもっていることを重視し，来年度の修学旅行Task TripでのTask（課題）案を作成し，２年生に贈ることとした。Task Tripとは，本校修学旅行で実施している京都班別学習のことで，与えられたTaskを時間内に達成できるようグループで行程，安全を考えて活動するものである。Taskは，歴史・文学・暮らし等のさまざまなジャンルにわたるが，いずれも現地に行ってこそわかる内容にしている。Task案の作成は例年教師が行ってきたが，Taskを達成する楽しさや意義を高めるために，生徒ならではの視点が活かせ

るのではないかと考え，今回の学習を設定した。行程面では，今年度の修学旅行での体験を基にすること，内容面では，三年間の国語科学習を振り返らせることでTaskのアイディアを生み出せるようにする。さらに，Task案を作成するメンバーで「時間」や「予算」といった観点ごとに担当を決め，担当者は必要な情報をメンバーに示すことができるようにする。こうした手立てを行うことで，大槻の言う「（２）誰もが『話す』内容をもっていること」や「（４）相互の『優劣』を忘れた状態」を作り，協働的に学習を進めていくことができるのではないかと考える。仲間との話し合いを通してTask案を作成する達成感と，後輩の学習に貢献する充実感を味わわせたい。

指導目標

１．話し合う活動を通して仲間と協働し，後輩達にとって有意義なTask案を作成できるようにする。
２．体験や知識等の情報をもとに，互いの意見を客観的に評価し合うことができるようにする。
３．より良いTask案を作るために，互いの考えを吟味し，建設的な意見が出し合えるようにする。

指導計画

１．修学旅行でのTask Tripを振り返るとともに，これまでの国語科学習を振り返り，京都に関連することを見つける ･･･ ３時間
２．後輩たちに贈る修学旅行のTask案を作成する ･････････････････ ３時間（本時はその２時間目）

	学習活動と内容	指導上の留意点
第1時 ～第3時	□修学旅行でのTask Tripを想起する。 （Taskの内容，感想，意義等） □これまで国語科で学習したことから，京都に関連するものを見つけてTaskのアイディアを出し合う。	○Task Tripの感想を率直に述べ合い，今回の学習意欲を十分に高めておく。 ○特に今年度はどのようにTaskを作成したかを話す中で，Task案を作成する上での条件を決める。 ○自分達の体験を基に，Task Tripでどのようなことを学習して欲しいか，後輩への願いをリストアップさせる。 ○１年生からの国語科の学習を想起し，京都にゆかりのある事柄を例示することで，Taskのアイディアが出やすいようにする。 ○現地で体験する価値があるものかどうか，自分達で評価させる。
第4時 ～第6時	□来年度の修学旅行が，後輩達にとってより意義深いものにするためにTask案を作成する。	○グループで話し合い，さまざまな視点から検討を重ねることでTask案を完成させ，アピールポイントをプレゼンできるようにする。

本時の目標

自分達のアイディアを話し合いの中でさまざまな観点から吟味し，より良いTask案を作成することができる。

「グローバル時代をきりひらく資質・能力」の視点

国語科では，異質な考えと出合い，柔軟な発想や相手を尊重する態度を身につけることを目標としている。特に，Ⅲ期（中学３年生）においては多様な考え方を吟味しながら課題を解決し，学びの成果を共有する価値や喜びを経験することが，「多様性」「協働性」の形成に資するものとなる。

学習の展開

学習内容・活動	指導上の留意点　（◆評価）
１．目標を把握する（５分）	
後輩へ贈る修学旅行のTask案を作ろう。	
	○学習目標を生徒と共有しておく。 ○自分達の考えたTask案の中から，ベストプランを作り出すためにしっかりグループで意見を出し合うよう促す。
２．Task案をどのような観点から吟味するか確認する。（５分） -	○前時で確認した観点から，自分達のTask案を見直してみることを伝える。 ①安全（中学生にとって安全な活動であるか） ②時間（余裕をもった活動になっているか） ③学習の意義・楽しさ ④予算（設定金額内に収まっているか） ⑤その他
３．思考ツール（レーダーチャート等）を用いて，プランを分析する。(10分)	○話し合いの流れを示す。 ○観点①～⑤を基にメンバーが考えた複数のTask案を分析する。
４．グループごとにベストプランを作り上げる。（10分）	○分析を基に，改善するための方向を示す。 （長所を増やすのか，短所を補うのか･･･） ○後輩達がTask Tripを楽しめるよう，観点③に重点をおいて吟味することをアドバイスする。 ○Task Tripを体験した自分達ならではのこだわりがTask案に表現されていることを大事にさせる。 ◆さまざまな観点から、自分達のTask案がより良くなるよう，積極的に話し合いを進めているか。
５．作成したTask案を交流する。(10分)	○自分達が作成したTask案のこだわりをアピールさせる。
６．本時のまとめ（10分） ・グループでの話し合いを通して，新たに得たことや改善した点をプリントに記入する。	○グループで話し合うことによって，Task案がより良いものになっていったことが実感できるできるようにする。

【参考文献】

大槻和夫：人と人とをつなぐ学習－話し合い学習を中心に－，月刊国語教育研究498集，日本国語教育学会，2013.

田村学：授業を磨く，東洋館出版社，2015.